

第49回がん関連勉強会 「がん患者さんへの心理的援助について」

恵寿総合病院

診療部 心療内科 臨床心理課

臨床心理士/公認心理師 佐原 周子

もくじ

1. 病院における心理的援助
2. がん医療における心理的援助
3. 当院における心理職の関わり

1. 病院における心理的援助

病院の心理職：臨床心理士/公認心理師

- 臨床心理士とは

臨床心理士の資格認定開始 1988年～

⇒日本における心理専門職としては古い歴史があり、資格所持人数の多い民間資格
スキル向上のため、5年ごとの資格更新制度が義務付けられている

- 公認心理師とは

公認心理師法に基づく国家資格 2017年～

⇒診療報酬に関わる専門職へ

◎ 資格を両方所持している者が多い

◎ いずれにおいても、医学に特化した専門教育を受けているわけではない

心理職の心理的援助の方法

① アセスメント

支援に役立つよう、心理検査や面接を通じて問題の状況や課題を明らかにする(介入方針の検討)

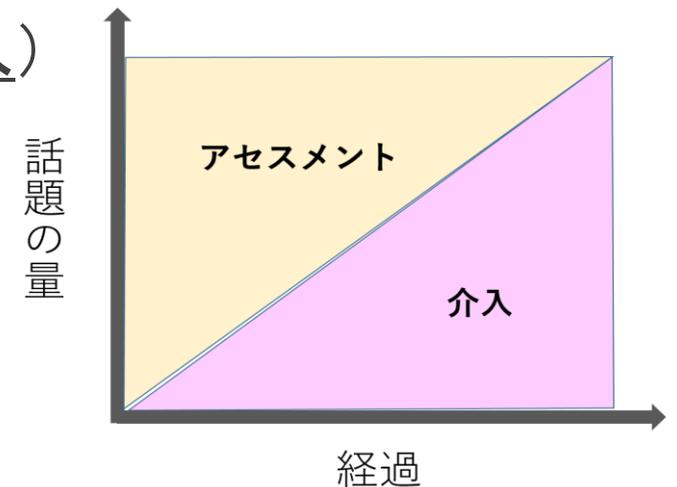
② 心理面接

心理カウンセリング、種々の心理療法(患者への直接介入)

③ 地域援助

④ 研究活動

日本臨床心理士会HPより一部改変



身体疾患にともなう心理的問題

- 近年、身体疾患患者の抑うつ状態や不安などの精神的問題が指摘されている

▼ 身体疾患により引き起こされる問題

- ・ 病気それ自体にともなう問題
- ・ 生活上の問題
- ・ 人間関係やコミュニケーションの問題
- ・ 人生や自己の存在に関する苦悩



諸問題により引き起こされる反応

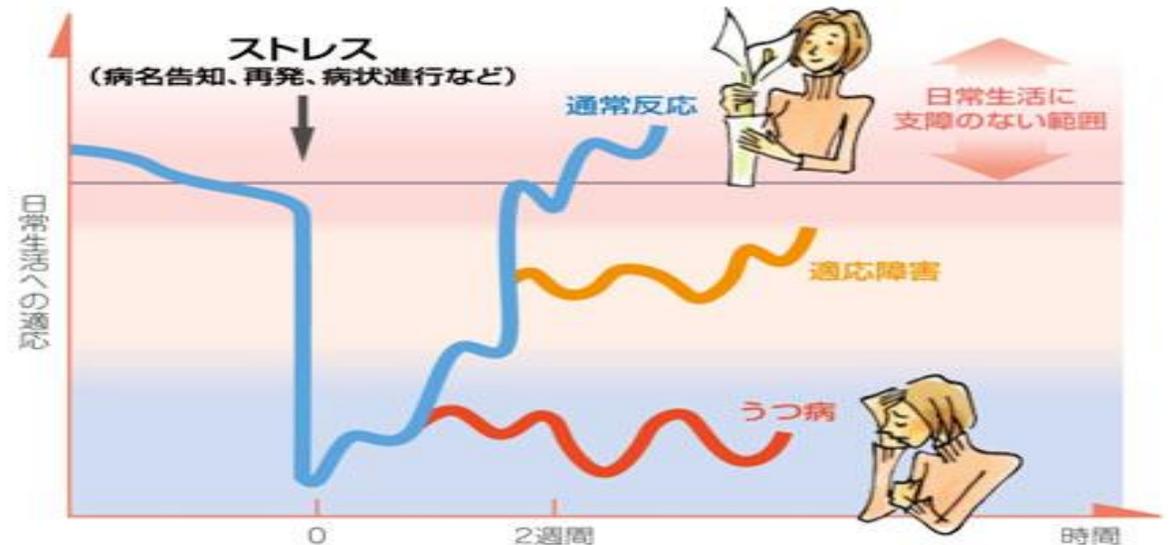
- 抑うつ
- 不安
- デモラリゼーション(モラル低下) など

➡ これらは治療アドヒアランス阻害要因
上記問題への対応が必要になる

2. がん医療における心理的援助

がん患者の心理的反応

- 告知時や再発の発覚:トラウマ体験に等しいショック
- 治療中:見通しの不確実性への不安
- 患者さんの病態変化や時間経過により心理状態の変化が大きい



画像引用:がん情報サービス <https://ganjoho.jp/public/index.html>

がん患者への心理的援助:アセスメント

まず、以下について、**評価**および**情報収集**

- 痛み、その他身体症状
- 生活状況(睡眠、食事など)
- 精神症状
- 意識障害の有無、認知機能
- 介入ニーズ
- 精神的健康度、レジリエンス(自己回復力)
- その他、「その人らしさ」が窺えるエピソードやプロフィール
- 必要に応じ、心理検査の導入



がん患者への心理的援助:心理面接

効果的とされている介入の例

- 支持的介入
- 問題解決療法(認知行動療法的なアプローチ)
- リラクゼーション
- グループ療法 など

※がん患者さん対応の場合、

状態の変化が大きいことなどから、柔軟な枠組みで対応を行うことが多い

高齢がん患者への心理的援助

□ 高齢患者にまつわるバックグラウンド・課題

- 高齢化社会
⇒ 高齢者のがん有病率・発生率の増加、延命期間の延長
- がんによる機能障害・治療
- ケア提供者の減少 マンパワー

□ 望まれる対応

- 患者さんの今の人となりや、置かれている社会・文化・家族の事情を理解して関わる
- 短期間で特定のゴール決めて到達を目指す

3. 当院における心理職の関わり

当院のがん患者への心理的援助: アセスメント

面接等の情報収集(スライド10)だけでなく、
客観的な指標を用いてのアセスメントも併用

□ STAS-J

- 質問紙検査(医療専門職による第三者評価)
- 緩和ケア対象患者および家族の現在の状態、ケアの状況等を項目ごとに数値化

当院のがん患者への心理的援助: アセスメント

□ 患者さん自身が直接評価を行う質問紙検査

- POMS2(ネガティブ感情の評価)、WHO QOL26(QOLの評価)など
- 心理状態等を数値化

【長所】

- ✓ 定期的に実施することで状態の変化の経過を追うことができる
- ✓ 可視化して心理状態の共有ができる(介入の導入にも)

【短所】

- ✓ 文章を読む力が保たれた状況に限定される
- ✓ 患者さんのペースに合わない場合

当院のがん患者への心理的援助：心理面接

参考：当院におけるがん患者指導管理料(口)算定件数(2022年度)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	0	2	2	3	11	5	8	3	14	36	35	39

※がん患者指導管理料(口)・・・

厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、がんと診断された患者であって継続して治療を行うものに対して、当該患者の同意を得て、当該保険医療機関の保険医又は当該保険医の指示に基づき看護師若しくは公認心理師が、患者の心理的不安を軽減するための面接を行った場合に、患者1人につき6回に限り算定する。

引用：厚生労働省HP

その他の心理的援助

- グループ療法

⇒がん患者サロン smile(すみれ)

他院では...音楽療法、アロマ、茶話会、ものづくりなどの交流イベントも

がん患者サロンSmile～すみれ～について

がん患者さんやご家族の方々の心のふれあいの場として、がん患者サロンを開設しています。
病気の悩み、同じ治療を受けた体験等を語り合ったり、交流する場です。
どうぞお気軽にご利用ください。



サロン名	Smile～すみれ～
場所	本館2階 化学療法室ラウンジ
利用時間	平日14:00～16:00
対象者	がん患者さんおよびそのご家族、ご遺族
利用料	無料

業務にあたって

- 患者さんのネガティブな言葉に対して
- それぞれの職種の役割(どれも大事)
- 「がん患者さん」



参考文献

- 下山晴彦・中嶋義文編『精神医療・臨床心理の知識と技法』医学書院, 2016年
- 鈴木伸一編『からだの病気とこころのケア—チーム医療に活かす心理職の専門性』北大路書房, 2016年
- 野村れいか編『病院で働く心理職—現場から伝えたいこと』日本論評社, 2017年
- Maggie Watson and David Kissane編; 内富庸介・大西秀樹・藤澤大介監訳『がん患者心理療法ハンドブック』医学書院, 2013年
- Goldie Lawrence and Desmarais Jane編; 平井正三・鈴木誠監訳『がん患者の語りを聴くということ—病棟での心理療法の実践から』誠信書房, 2022年

ご清聴ありがとうございました。